

自連特別号 '72.5.25  
参加臨時号

大阪連自留局千殿高旭

長船さん、発行したらスグ送るようになります。やはり日付が余りずしていたら白けてしまうのでしょね。とにかく、ぼくの時計ときたら、いつの間にか狂ってしまっていたのですね。遠い道だから、すぐに歩き始めても行き着くことはできないだろうのに、息の長いことと休憩してることの区別がついていなかったんです。

実は、一人の女の子が死んだのです。いえ、そういう連絡が来たんです。可やけぼくいの、自通関係では最初の読者でした。そして、それだけだったのです。手紙々には、彼女の日記に杉原の名があったと書いてありました。……も一度言います、彼女は可やーの才一号読者で、それだけだったのです。手紙も長い間書いていなかった。可やーはすらまとして送るつもりでいました。そんなルーズさは、彼女の死とは無関係にちがいありません。けれど……。

M、例のバイトは四月一杯で辞めました。半年以上にもなるし、交通費などの条件も悪くなってきてたしで、まァ潮時だったと思います。その最後の日――廿日とふりかえで30日の日曜日――。烏丸車庫の辺りで雨にあいまして。粉糖雨ってやつでしょう。濡れて行こう、と氣取っていられるほどの、小雨。市電を待ちながら、少し振りに「雨の匂い」を嗅ぎました。砂か糞の濡れる匂い。長雨の続いた菜種梅雨にも感じることのなかった、匂い。今日で終り、っていう解放感のせいかも知れませんが。雨の日の配達は辛いものですからね。でも、とにかく、自分が今も「雨の匂いを感じる」ということが無性に嬉しかったです。で、今は無職トウメイです。

トウメイ、といえは……時期外れの桜花賞が目前。30日のトライアルではシンモエダケにビ肝ぬかれたけれど好きになれない馬だ。からだつきからして氣にくわない。『男まさり』を絵にしたようなもの。尤も、トウメイはど『おんな』を感じさせる、しかも強い馬はザラにはいないが。男まさりが男にまさったって、そんな口傑がいなくて、それは『男優位』の確認でしかないよね、と、これは馬とは関係ない話。ともかく、ハ上方ナシヨナリストのぼくだけど、『桜』は関東馬両馬に頑張ってるらしい。69年ハトウメイ二着。みたいになると、シンモエかね。牡四歳も、ロングエースなんて弥生賞にふさわしい美男が圧勝したけど、50キ口以上の巨体は好かんから、惨なまでに劣勢な関東馬に声援おくらせてます。あ、そうそう、ぼくは馬券買ったことはないんです。

×  
 ×  
 ×  
 ×  
 ×  
 ×

なんだかなあ、と、このごろ不思議でしょうがない。

ヤマギシ会帰りののは、なぜそろいもそろって――みんなが仕事している脇でボケーツと座っておれるだけの度胸があるんやね、彼らは。必ずしも、仕事してれば善と考へてるわけじゃない。だが、たとえばAアジト。ここは仕事場、事務所。どこでもそうだろうが、ここにも、錠――不文律、一定のリズム――がある。それは決して不変やないから絶対服従なんてナンセンスだけれどそれを破る或いは無視することは、ある種の責任を伴うのではないだろうか。

たとえば、Aアジトで、<sup>あるい</sup>主人として振舞うなら、アジトをどのように維持し機能させるのかを考え行なわなければならないと思う。いや、それが主人として振舞うことなのところがうやろか。そうでないような主人は、実は、<sup>あるい</sup>客の裏返しでしかない。ここがどうなろうとオレの知ったことか。オレはただ、ここが泊れるから居るだけだ。ダメなら出て行くよ。という、<sup>あるい</sup>客の多いこと。

この問題は、ぼくの「連合」・「共同体」・「結社」の根っこにありなので、気負ってしまえそう。だから、ここではこれ以上触れません。

時々「黒川さん」なんて呼ばれることがある。どうもピンとこない。黒川は、杉原とちがって単にペンネームで、でさるだけ空々しく非実在的に、とつけた名だ。H市から来てはったOさんから「黒川さん」と呼ばれてとまどった。キザな名のせいだろうか、近藤正臣タイプをイメージしてたとかで、Oさんの方でもとまどってばったようだ。彼によれば、ぼくの文章は「リリカル」なのだそうだが、ぼくはいえ、そう言われて黙って辞書を引き、リリカルの意味を知ったという次第。自分では「悲しい文章」が書けぬのを嘆いているのに。そうそう、彼にはぼくの年齢へ二〇歳デスも信じて貰えなかった。年齢なんてどうでもいいことだけど、少し走ってみえるらしく……。面白いののは「杉原さん、あれはちよっとわかりにくいですよ。どういうことですか」なんて言ってたのが、自分より若いとわかると「杉原くん、わりと面白かったよ」とコロッと変る人。（ウケいし）さん付けで呼ばれるの嫌いだから、それは構わないが、話の内容まで変ってしまう。どうでもいいことに縛られてるもんですね。お互い。

北川さん、母親にならるんですってね。オメデトウ。  
 (でいいのかな?) ャラしくない。母親になって下さ  
 い、せいぜい。先日、暑い日の昼さがり、市バスの吊り  
 皮にぶら下っていました。どうしたわけか満員。野江神  
 社前(伊藤野枝のノエではありません、勿論)で降りて  
 いく人の後姿がとっても……。その人、紺のＴシャツに  
 グパン。はたち前後にしか見えなかったんですけど、左  
 腕で赤ちゃん担いで(抱くというより)【ウラ下段へ】



